

日本は人口が半分になる！！

男女が性の自由を謳歌する社会風潮は、特に日本だけの問題ではなく、米国をはじめとする先進国の多くはこの問題を抱えています。その原因はピルの出現に始まったのかは、その分野の専門家のご意見を聞く必要があるかと思えます。

米国でも性教育として中学生あたりに、「（特に貧しい都心部マイノリティー子女）子供の将来を守るために妊娠を防止する」という理由で「如何に安全なセックスをするか」という教育が始まったのが、20年以上も昔のことでピルが広がった時期だったと思えます。これを聞いて子供に性行為を奨励する結果にならないかと心配したのは事実です。

この風潮は日本にも輸入されたのか、90年代には日本でも未成年の性行為が黙認・自由化されて、その若者が成人してIT技術と結合したのが“出会い系サイト”になっている。

「別に年寄りが目くじら立てる事ではなかろう」という声も予想できるのですが、敢えて一言申せば、自由な出会いは結構だが、日本の人口はこれから急速に減りだすという事実をどうするかという点をあげて考えたいのです。

大淵寛（ひろし）中央大博士（日経2月16日）によれば、

- 少子化は74年に始まっており、そのモメンタム（慣性）でこれから数十年は出生率が増減無く、2.07に戻っても減少が止まらない。
- これからの出生率が04年の1.29のままであれば、慣性を度外視しても今の1億27百万人は50年後には56百万人に減り、百年後は25百万人に減る。実際は30~40年か！
- 千年後には、出生率1.9でも360万人しか残らないし、1.7なら10万人、1.5の場合でも2千人だそうです。周辺の国に飲み込まれるから、その前に移民を認めるでしょうが、

貝原益軒の「接して漏らさず」や、ピルを使って出会いで漏らしている暇は今の日本人にはないのです。どんどん産めよ増やせよでないとなれば国がなくなる。GDPも今の半分以下の国になってしまう。「既に個人ベースの一人あたりは世界で7~8位ですから、国もそのクラスになるだけで良いではないか」という方もいますが、私はそれでは残念です。

その意味で、出会った後は結婚して貰いたい訳です。近くに10倍の人口と、国内競争で成績優秀な労働者を抱え、給料が1/10以下の大国が二つも急速で追いかけてきているのです。自由経済からは脱線しますが、コンドームやピルメーカーを国有化して、子供のいない人には配給制にする手もあるでしょう。

ネットで調べたら、今現在はざっと毎年107万が死亡して106万人が生まれているようで年に1万人の差かと勘違いしやすいのですが、これからの死亡数の増加の勢いを考え、また出生しても成長するまでに掛かる時間も考えると、こんな数字では間に合わないのです。急には増やせないと分っている。

だから、米国が毎年100万人の移民を受入れているなら日本も50万人とは言わずとも、10万人単位で入れる必要があります。それで国内の犯罪率が増えたり警備がおろそかになっては困るので、輸入労働者1千人に1人としても、毎年100人単位で警察官も養成せねばなりません。これも言葉の問題があり輸入労働者でふやす事になるのでしょう。

外国生れや移民が増えても、固有の文化も失って欲しくない。そういった、国の経済の基本を考えて手を打っていく政治家も輸入せねばならないかも知れません。 (021606 岸岡 ITA,Inc.)